伝言板【原発立地から】

伊方原発このまま廃炉！

伊方町交渉

伊方から原発をなくす会　名出真一

広島地裁に提訴された伊方原発運転差し止め仮処分の決定が11月4日に出されました。内容は本当にひどいものでした。「規制員会という専門家が、専門的知見によって判断したものだから裁判所では判断できない」と、司法の役割を放棄しながら、電力会社側の主張のみは認めたのです。しかも650ガルを超える地震が来るというのなら、そのことを証明しろと地震学者でも不可能なことを住民側に求めています。これは住民側の立証責任の軽減をはかった伊方訴訟の最高裁判決を無視したものです。この訴訟では「全電源喪失、メルトダウン、水素爆発」などの危険性が学識経験者から指摘されていました。司法、政府、電力会社のどこか一つでもこれを真摯に受け止めていたなら、福島原発事故はなかったかもしれません。この責任は甚大です。

10月11日に行った「伊方原発動かすな！現地集会」の後に、伊方町と意見交換が行われました。そこで伊方町は「想定外があるから」と答えました。この「想定外」という一言で、福島第一原発事故の責任を東京電力も推進してきた政治家も、原発の設置を認めてきた行政や司法も全て免罪されています。「原発は絶対に過酷事故を起こさない」と言って原発を推進し、事故が起きれば想定外。こんなでたらめを絶対に許すことはできません。「想定外」を口にするなら、全ての危険因子を「想定」しないのなら、原発を動かすことは絶対にできないはずです。福島原発事故は10年経っても収束の目処すらたっていません。二度と同じ過ちを繰り返さないために、全原発廃炉まで闘いましょう！！

島根原発２号機の再稼働はＮＯ！決めるのは私たち

さよなら島根原発ネットワーク
芦原康江

9月15日に設置変更許可が出された島根原発2号機は、安全性が担保されないまま、再稼働に向かって突き進みつつあります。

現在、中国電力と行政主催の住民説明会が頻繁に行われていますが、参加した住民からは、中国電力の過去から一貫して続く不正行為に対して不信感が突きつけられています。また、「避難計画」に対する住民の信頼がないことも際立っています。地震などの自然災害も発生する中、全国の原発立地点の中で3番目に多い約46万人が、放射性物質が漂う中を避難することを想像しただけでも、多くの住民は「ムリがある」と感じています。

再稼働ありきの行政側にとって、住民説明会は手続きの一環でしかなく、決定事項を繰り返し説明するだけで誠意のかけらもありません。住民の不信感が払しょくできるはずがありません。それでも、彼らは再稼働に向かって進もうとしているように見えます。

「避難計画」の困難な実態にも目を瞑り、本気で住民の安全を守ろうとしない行政に、私たちは未来をゆだねることは到底できません。ここで暮らす住民自身にも決める権利があると考えます。松江市が再稼働に対して答えを出す際に、地方自治の理念である「住民自治」原則にのっとり、市民が熟慮して結論を出し、表明する権利を実行したいと考えます。30㎞圏内周辺自治体の４市で市民団体による住民投票直接請求署名活動を始めます。どんな未来を残すのか、私達は大人の責任を果たしたいと思っています。

松江市内住民説明会

原発やめようニュース
反原発自治体議員・市民連盟

NO.４０　２０２１年１２月

反原発自治体議員・市民連盟
共同代表　佐藤英行（岩内町議会議員）
福士敬子（元東京都議会議員）
武笠紀子（元松戸市議議会議員）
野口英一郎（鹿児島市議会議員）

〒168-0072
東京都杉並区高井戸東3-36-14-301
TEL/FAX 03-5936-0311

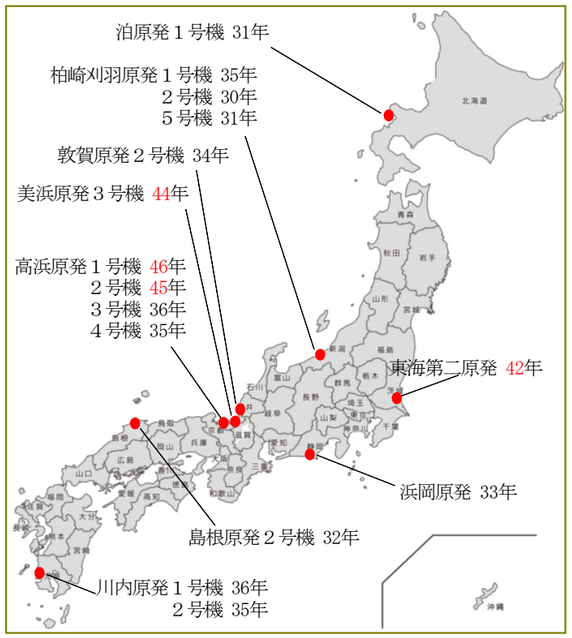
東海第二原発、高浜・美浜原発、島根原発を止めるために
全国から請願への賛同・行動にご協力をお願いします！

来年9月再稼働反対請願に全国から賛同を

原電は水戸地裁判決を不服として控訴し、「使用前検査申請書」に示した2022年9月東海第二原発の核燃料装填・原子炉起動に向け、安全対策工事を急いでいます。4月に東海村商工会議所が再稼働推進請願を村議会に提出、９月に同様の請願が出され、村議会の審議が進んでいます。村長選で再稼働の是非を示さなかった山田村長は、村議会が推進請願を採択することで、再稼働に向えると踏んでいます。

連盟は、来年2月の東海村議会第1回定例会が、再稼働の是非を巡る対決の場となると判断し、すでに市民団体から出されている「慎重な避難計画策定と住民合意を求める」請願に連帯し、再稼働の中止を求める請願を、全国の自治体議員の連名で1月に提出することにしました。

敦賀原発の断層資料を書き換えた担当者が東海第二にも関わっています。東海第二原発の審査資料にも疑念があり、規制委員会の再調査を求めつつ、原電に原発を動かす資質も力もないことを明らかにしていきます。



12．5大阪集会から老朽原発止める流れを

12月5日おおさか集会への参加要請が実行委から呼びかけられています（詳細はP.3参照）。高浜１・２号機の再稼働は遅れ、美浜3号機もいったん稼働したものの特重施設が間に合わず10月23日に停止しました。これを機に高浜・美浜を止めることは、全国の老朽原発を止める力に点火します。老朽原発の危険性を訴え、立地自治体の議員・市民と連携し、若狭の老朽原発を止めるために全国の力を集中しましょう。コロナ感染も落ち着き始めた今、12．5集会に、全国から参加を呼びかけます。

島根原発反対の声を全国から集中しよう

エネルギー基本計画で原発新設を盛り込めず上関の建設が見通せない中、中国電力は島根原発再稼働に傾注し、住民説明会を始めました。これに対し松江市民は住民投票を準備し、2月定例会に向け署名運動を進め周辺自治体にも拡大しています。私たちはこれに応え、松江市議会、島根県議会に対し請願を準備します。全国の自治体議員のご賛同をお願いします。

来年９月予定の東海第二原発再稼働を阻むために

茨城県・東海村議会議員　阿部功志

【東海村長選結果と今後の動き】

９月５日に茨城県知事選と東海村長選が同時に行われた。村内の票は大井川知事12,614票（田中重博氏2,927票）に、山田村長11,562票（乾康代氏3,907票）と、村長票が知事票より約1,000票少なかった。村長は議会での質問に、「原因は、施設建設や幼保再編統合の事業に当たって、村が村民の意見を軽視して進めたことに対する反発ではないか」と弁明した。これを反省し、避難計画策定や再稼働判断に際し村民の慎重な意思確認を行うことを期待する。

県知事選のNHK出口調査では東海第二再稼働反対が66%。再稼働反対でも大井川氏に70%が投票している。「村長選の投票数から、再稼働反対の村民は25%しかいない」と議会で決めつけた村議がいた。もとより村長選は再稼働賛否の投票ではなく、山田村長も賛否の表明はしていないので無理筋の理屈。推進派議員の強引な出方も、今後要注意だ。

【早期再稼働求める請願審議に注意】

４月以来、４件の請願が村議会に出された。「避難計画の早期策定を」が１件、「早期再稼働を」が２件。一方、再稼働反対グループからは「避難計画の策定は慎重に、住民合意も」の請願が１件。水戸地裁判決で焦ったのか、3件は「完璧な避難計画はできないのだから、ひとまずできたことにして、早く再稼働を」という言い分である。審議で推進派の請願者は、議員からの質問に、「述べるのは控える」「それ以上の話はできない」と質問に正面から答えられない。請願審議の今後に注目したい。

東海第二原発近くの再処理施設に防潮堤がなく津波などに対処できるか疑問

核ゴミ受け入れ反対！来秋の住民投票に向かって寿都町民の闘いは始まった

北海道・岩内町議会議員　佐藤英行

１０月26日に寿都町長選挙が行われた。昨年８月、寿都町が核のゴミの最終処分場建設に向けての文献調査に応募したことに、寿都町民は立ち上がった。学習会、住民投票条例制定の直接請求、講演会の実施、署名活動、会報の発行と手渡し配布等々、この１年間奮闘した。

文献調査反対の候補者をたて町長選に突入。全道からの寄せ書きが反対派候補の越前谷由樹事務所の壁を埋め尽くし、士気は高まる一方。他方、片岡町長陣営は５期の余裕もかなぐり捨て、町内の福祉施設に支持を強要したり、某団体の長に対し片岡に入れなければ給料を下げると恫喝していることなども聞こえてきた。さらに、次の概要調査に行くときは、住民投票を行うのでその時に判断すればいいと触れ回った。

結果は、投票率84%で、越前谷由樹氏が900票（44.2%）片岡春雄氏1,135票（55.8%）と惜敗した。報道機関の出口調査では片岡氏に入れた25%ほどが核ゴミ反対とのこと。一方同日に行われた町議の補欠選挙では、反対派候補1,121票、推進候補884票と反対派が勝利するねじれ現象となった。町長選に敗れたが核ゴミ拒否闘争に敗北したのではないということだ。

概要調査及び精密調査に係る住民投票条例は、本年３月に町長側から出され可決されている。来年秋にも住民投票が実施されることになり、闘いも新たなステージとなる。売られた闘いは買って（勝って）やろうじゃないか、寿都町民

「強風の町」で有名な寿都町の風力発電

１２.５「老朽原発このまま廃炉！大集会inおおさか」に総結集を！

老朽原発うごかすな！実行委員会・木原壮林

原発が老朽化すれば、危険度が急増することは多くが指摘し、2012年改定の原子炉等規制法でも「原発の運転期間は40年（例外を除く）」と規定しています。それでも、関電は、老朽原発・美浜3号機（44年超え）を、6月23日に再稼動させました。一方、特重施設の設置が期限の6月9日に間に合わなかった老朽原発・高浜1、2号機（46年、45年超え）の当面の再稼動は中止しましたが、再稼働準備は継続しています。なお、美浜3号機も、特重施設の設置が間に合わないため、設置期限（10月25日）の前々日23日には、わずか3ヶ月の営業運転で、停止を余儀なくされます。

ところで、高浜1、2号機、美浜3号機の特重施設の完成は、早くても2023年5月、6月頃、2022年9月頃といわれていますが、これらの老朽原発は、特重施設の完成後に再稼働されたとしても、2023年末には停止に追い込まれる可能性が大です。それは、「2023年末までに使用済み核燃料の中間貯蔵地を福井県外に探せなければ、老朽原発を停止する」と明言した関電による中間貯蔵探しは至難であるからです。老朽原発停止を突破口に原発全廃に向かって大きく前進する好機です。

「老朽原発うごかすな！実行委員会」は、来る12月5日に「老朽原発このまま廃炉！大集会inおおさか」を開催し、10月23日（美浜3号機停止予想日）～12月4日を「老朽原発このまま廃炉！キャンペーン期間」として、老朽原発廃炉に向けて「やれることは全てやる」ことを決定しました。昨年の9.6、本年の6.6「老朽原発うごかすな！大集会inおおさか」（コロナ禍にも拘らず、1600人、1300人参加）を大きく上回る大結集を目指しています。皆様のご賛同、ご参加をお願いします。老朽原発の廃炉を突破口に、原発のない、すべての命と尊厳が大切にされる社会を実現しましょう！

雨の中の「美浜３号もう動かすな！現地行動」

老朽原発うごかすな！実行委員会・橋田秀美

美浜原発から海を隔てた真正面の公園に、福井県や関西から63名が集い、雨の中を「美浜３号もう動かすな！」とシュプレヒコールを繰り返しながら、原発前を往復するデモを行った。

その後、美浜町役場横から関電原子力事業本部前までデモで移動し、抗議行動と全原発の廃炉を求める申入れを行った。再びの町内デモでは、美浜町役場前を通りながら、「老朽原発再稼動の同意を取り消せ！」と訴えた。沿道からデモに手を振る人々を多く見かけ意を強くした。

昨年の9.6「老朽原発うごかすな！大集会inおおさか」

原電抗議に６６名が参加　来年９月再稼働断念を求める

11月6日に月１回、夕方５時から１時間の原電抗議行動。反原発自治体議員・市民連盟（以後、連盟）も必ず参加するようにしています。当日の主な発言は、主催者の東海第二を止めよう首都圏連絡会を代表して柳田真さん、柏崎・刈羽原発反対在京者の会の菅井益郎さん。原電への要請書は、まず茨城県の東海第二原発の再稼働を止める会の披田信一郎さんが、続いて武笠紀子・連盟共同代表が力強く読み上げた後、原電が用意した“いつもの机”に置きました。

原電は今年から有価証券報告書の開示をやめ会社概況書に切りかえ、批判が多い東電などからの資金の流れが見えなくなりました。データ改ざんだけでなく財務状況を隠蔽する原電に原発を動かす資格はないと厳しく弾劾しました。

原電は、水戸地裁差止判決に従い、原発立地自治体６市村が認めていない現状では、来年9月予定の再稼働は断念するよう求めました。